ふくいの子どもたちと先生のための

GGKニュース2023

Gakko Gyomu Kaizen

VOL.13
令和5年11月21日発行

発行：福井県教育庁
教職員課　学校業務改善グループ
kyosyoku@pref.fukui.lg.jp

今以上のGGKってどうしたら“みんな”でできる？

これまで、様々な学校での実際のGGKのアイディアや進め方を紹介してきました。どの学校でも共通していることは、「納得感」があり、同じ方向を向いて取り組んでいるということです。そのためには意識合わせが欠かせません。
今回は、意識を変えたり、課題を発見するヒントをご紹介します。

キーワード：”対話の場”と”ユニット”の両輪でGGK

県立武生高等学校

若手を中心としたフラットな対話の場「ワークスタイルミーティング」

他の先生はどんなことが負担になっているんだろう？
話す時間を作れないものだろうか…

こんな声を受けて、場を設定してみることに。

若手の先生を中心に声掛け
＋
管理職

＊目的と約束＊

＜目的＞
・”わくわくする学校”にするために、まずは教職員が元気になろう！
・現状把握のため、多くの声を集めよう！
＜約束＞
・発言を否定せず、ざっくばらんに話す場にする

初回を夏休み終盤に開催。
テーマ：1学期の困りごと
今後、具体策へ向けて回を重ねていく予定

「学校改革マネジメントユニット」での具体的な取組推進

校内の4つの取組の柱のうちの1つとして「多忙化解消」を掲げている

★教職員のアンケートをもとに、「生徒との協働」「教職員間の協働」につながる取組の検討・着手
★教職大学院で学んでいる先生が他校・他校種の先生から聞いた取組も参考に検討

○クラスBOXのペーパレス（実施済み）
以前：生徒への連絡事項を一律で紙配布➡改善：必要な生徒にもれなく伝達、手軽に見返せるようにGoogle Classroomへ

○戸締り等の当番簡略化（カリキュラムPTの目指す「生徒の自走力」と併せて検討中）
現状：下校時刻に見回り、下校を促すため校歌放送（この時点で既に超過勤務）
➡検討中：生徒（当番）が戸締り・委員会で見回り、教員（当番）は勤務時間内で見回り
☆できたらい良いこと：下校の放送もチャイムのようにプログラムしておけないか？

「子どもの自主性を育む手をかけすぎない指導」にもつながるGGKを進めています。

「教員業務支援員」※の活躍による負担軽減

★R5年度より県立高校に教員業務支援員を配置（モデル校2校）
★ICTに長けた方のため、校務のDX化、ペーパレス化、HP管理等で活躍。他に校内美化、プリンター等への紙補充、発送物作業等
➡特に職員数が少ない定時制でICT関連は負担軽減が大きい
★全日制・定時制両課程があるため、教頭が窓口となって業務を調整

※スクール・サポート・スタッフ、学校運営支援員

キーワード：中学校区で一緒にGGK研修

福井市　明倫中学校区（明倫中・木田小・豊小）

令和5年度文部科学省委託事業「学校における働き方改革の推進に関する調査研究」のプログラムに本県が選ばれ、福井市明倫中学校・木田小学校が研究対象校として参加しています（全国21校の小中学校が参加）。全国のオンライン研修やコンサルタントの伴走支援のもと、各校で働き方改革、授業改善を進めています。
今回は、同じ中学校区の豊小も含めた3校での合同研修を取材しました。

まず最初に！　「紙で割りばしを割れますか？」

割りばしをまず食事の前のように、2本に割った状態を準備。縦に木目に沿って割くのではなく、横に真っ二つにします。（右写真）
今回の研修では、参加者全員が割ることに成功しました。
ヒントは「バイアス」。VOL.10の「アンコンシャス・バイアス」もご参照ください。

時間予算ワークショップ

割りばしを割ることができた成功体験から、「それって本当？」「いつからそう思っている？」という視点を持ちつつ、4～5人でグループワークを行いました。

① 1日30分を生み出す改善アイディアを付箋に各自で書き出す
② アイディアをシェアした後、3つに仕分ける
・自助（個人裁量）　・共助（学校裁量）・公助（教育委員会・国裁量）
③ アイディアに印を付ける
★：すぐにできそう　　○：実行したいがしっかり検討する必要がある
（他グループの模造紙も見て回り、書き加えていく）
④ アイディアを実行に移すプランをグループで作成
（「自分が管理職だったら？」という視点で、乗り越えるべき課題も考える）

【参加者の感想（一部）】
・固定概念をなくして、業務改善に向けて話し合えたのは、なかなか新鮮で参考になった。
・コロナ対策が緩和されている中、「コロナ前と同様に」という思い込みが多忙化を招いている気がします。
・絶対にできないだろうと思っていたことも、話し合ってみると可能性も見えてきてよかった。
・これまでは、そうは言っても、、、と思っていましたが、今回は実現可能な気がしました。

研修後は、各校で取組を開始したり、開始に向けた検討を進めています。

＊編集後記＊

学校の中でGGKの推進者やリーダーを任されて、「これ以上何ができるだろうか」「すでにやり尽くされているのでは」と悩む声も伺います。
そんな時にパッと開いてヒントを見つけたり、話題提供の材料にできるのがGGKニュースであればうれしい限りです。
参考になるのは、結果が大々的に出ているものばかりとは限りません。今回のように「今まさに始めました！」という取組も誰かの背中を押すきっかけになりますので、ぜひお気軽に取材のご依頼をお寄せください。

次号　VOL.14も
お楽しみに！